編輯室より

△別記の如く、十月號より編者の變更あり、今後 荒木講師此の任に當らるゝ筈。

△九月號の豫告に反して荒木氏の通俗講座は休講、「人然と人類」を以つて之れに代へらる

△山本助教授の滯米中に我等は氏の御寄稿によつて、米國の大天文臺を一順參觀する事が出來た。新入會員の爲めに其の文を含む舊號を示めさう。

三卷五月號(二十九號)
ヤーキース天文臺、ヤーキース天文臺の現況
三卷十一月號(三十四號)
リク天文臺の現狀
三卷十二月(三十五號)
ウイルソン山天文臺に來て
本號
ハーヴード大學天文臺の此の頃

尙氏の海外日報中には大小數箇所の天文臺訪問の記事を見出し得べし。

△天文と關係深き「コロンブスの航海について」敎へらるゝを喜ぶ。彼は記憶さるべき同好者の先輩である。

△御斷り、「此の頃小望遠鏡で面白い星」は反射鏡の記事の爲めに當分休載す。

觀測部より

△天文急報は事件無き爲め發行せず。山本氏歸來の上は再活動を始む豫定。

△火星觀測の際スケツチを取られし方は送られたし。

事務室より

△大津の伊藤雅一君八月中働かれしも、家庭の都合上充分に御願ひ致し兼れ、九月十日以後、京都の小林忠次郎君が事務の方面に獻身的に御活動下さる事となる。

△前金切の方九月號天界發送の際、總會員の半數以上ありたり、速かに御拂込を乞ふ。

廣告

大正十年十月より事務に掌り、十一年九月以後編輯をも兼任せし海老恒治氏は今回其の主イエス・キリストの召を蒙り、其「主の用」に專ら從ふべく本會を辭せり。氏は去るに際し既往に於ける幹事諸氏並に會員諸氏の御愛顧を深謝されたり。

今後氏の住所は
東京市外下落合二七四 栢植不知人氏方
京都の住家は近く全部引拂ふ筈。

天文同好會

本部 京都帝國大學
同志社支部 京都市
京都小學教員支部 第一朱雀小學校
中京支部 京都市錦小路油小路東入
西陣支部 京都市七本松五辻下ル
三高支部 京都市第三高等學校
大阪支部 大阪市東區安土町三丁目
神戸支部 神戸市尼崎四町目
甲南支部 兵庫縣生田町
岡山支部 岡山市門田二十一
美作支部 岡山縣苫田郡津山町大字上ノ町
名古屋支部 名古屋市東區東芳野町五
上田支部 長野縣上田高等女學校
長野支部 長野市長野小學校
高水支部 長野縣下高井郡穗積小學校
松本支部 松本市築摩部
諏訪支部 長野縣上諏訪中學校
廣島支部 廣島市研屋町五一
九州支部 福岡縣大牟田市甲町
山口支部 山口高等學校化學教室
仙臺支部 仙臺第二高等學校
天文臺 天文同好會
同志社大學 內新川
山本孝二郎 濱野眞登
周治清人 中澤登
宮川係清 三澤德一郎
上三澤 熊野和吉
黑岩魁一郎 小部
長野縣本市 上諏訪中學校
廣野縣 福岡縣大牟田市甲町
古賀 和吉
垣野寬之
井上正敏

天界 第四十四號

大正十三年九月廿四日印刷
大正十三年九月廿五日發行 (郵稅金五厘)
聖護院局私書函第十一號
(定價三十五錢)

(京都帝國大學天文臺內)
編輯兼發行者 天文同好會
振替貯金 大阪五六七六五番
右代表者 山本一清
京都帝國大學天文臺內
發行所 天文同好會
京都市下京區西洞院七條南入
印刷所 內外出版株式會社印刷部

賣捌所 警醒社
東京 東京橋銀座尾張町
丸善株式會社
東京 京都 大阪 福岡 仙臺